

特採日記

～鏡川廓中堰下流編（平成26年5月18日）

高知大学農学部の学生さんが、鏡川で鯉ヘルペスの研究をしている事から、医学博士の今城雅之氏と知り合い、鏡川の鮎の冷水病の研究をしていただくようになりました。鮎の冷水病は年間を通しての鮎のサンプルが必要で、一年を通し鏡川の鮎を捕獲し、今城氏に提供しています。

前回、学生さん達だけの特別採捕は捕獲が大変だったとお聞きし、今回は鏡川漁協も捕獲のお手伝いをさせていただきました。捕獲と共に、現在の廓中堰から下の鮎の現状も解りましたのでご報告いたします。



特採を行った5月18日は廓中堰から下流の放流を、まだ行っていない状態、100%天然の鮎が体長10～20cm、大きいものではおとり鮎になるものもいて、密集状態は良好です。かかりは友釣り・毛針で1時間10匹程度、と網では小さい鮎が10匹程度で特採をやめました。



この後、5月19日・26日と廓中堰より下流域に放流する予定ですが、自然の鮎が、かなり遡上している状況です。

特別採捕した鮎は、全て今城氏に提供、冷水病の研究に使用して頂きます。

鏡川漁協特採隊